

会 議 録

会 議 名	令和 6 年度 第 1 回山形市少年自然の家運営協議会
開催日時	令和 6 年 7 月 1 7 日（水） 1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 3 0
開催場所	山形市少年自然の家 研修室
主 催	山形市少年自然の家
出 席 者	出席委員 山口 雅和、長沼 政直、辻原 吉子、畑 秀生、安達 和弘、 黒沼 末八、大嶋 民代、横倉 明、黒木 佳昭 欠席委員 奥山 健悦
事 務 局	金沢 智也 教育長、高橋 一実 教育部長 少年自然の家 和田 裕樹 所長 金山 治行 副所長 菅野 研一 管理係長 森山 真澄 指導主事 横山 誠 主幹
議 題	令和 5 年度事業報告・施設利用報告 令和 6 年度事業計画・施設利用予定 少年自然の家熱中症対策 6 月 2 0 日熊出没への対応 等
資 料	令和 5 年度 第 1 回山形市少年自然の家運営協議会 資料
傍 聴 者	0 名
作 成 者	主幹 横山 誠

会議経過

1 委嘱状交付

2 開会

3 教育長あいさつ

4 運営協議会会長あいさつ

5 委員及び事務局職員紹介

6 協議

少年自然の家条例施行規則により、黒木会長を議長に選任

(1) 令和 5 年度事業報告について

(2) 令和 5 年度施設利用報告について

事務局より、資料を用いて報告。

委員 家族でキャンプ等は申込み多く需要多いのではないかと。一般参加者の方でリピーターはどのくらいいるのか。

事務局 各事業実施した際にアンケートで自然の家の利用回数も回答してもらっている。親子ふれあい自然体験や家族でキャンプ体験には同じ家族の参加が見られた。なるべく多くの新しい方に参加してもらえる様、定員を超えての受け入れを行うなど努力している。

委員 秋祭りは募集 2 0 0 人で 4 0 0 人以上の参加となっているが受け入れは可能だったのか。

事務局 秋祭りは事前申込みいただく事業ではなく、参加者の方が都合の良い時間で自由に出入りできる催しであるため受け入れについては可能である。

委員 親子そば打ち道場は自分も協力しているが35組の申込みがある。もっと受け入れが可能ではないか。道具や講師が不足しているなら協力考えたい。

事務局 毎年多くの申込みをいただいております、なるべく多く受け入れたいと考えているが、職員の人数と道具の不足から15組程度が限界と考えている。道具は自然の家の手持ちが10組しかなく双葉のそば打ち道場さんよりお借りしている状況である。

委員 各事業の参加料はどのような状況になっているのか。

事務局 事業の費用については食糧費、宿泊を伴う場合はシーツクリーニング代、活動にかかる材料代等の実費をいただいている。一泊二日の子ども対象の事業だと、食事3食とシーツクリーニング代でおよそ2,000円程度となっている。

委員 中学校の利用人数が増加しているが、どのような利用状況であったのか。

事務局 延べ人数のカウントなので1泊なら実人数×2となる。また、例えば本館とキャンプ場を利用するとそれぞれで人数をカウントしている。昨年度はコロナ明けで第五中学校が1年生と2年生の宿泊利用があった。令和5年度から宿泊できるようになったことが増加した大きな理由である。

(3) 令和6年度事業計画について

(4) 令和6年度施設利用予定について

事務局より、資料を用いて報告。

委員 雪椿祭り会場 ヤマアジサイも群生しているが藪の状態で管理の手間あるが見てもらいたい。

委員 少年団の募集人数が減少したが、申し込みはどのような状況だったのか。

事務局 会計年度任用職員のスタッフ減のため安全面を考慮して定員を30名に減らした。応募は例年の状況と同様で45人程だった。少年団に入れなかった方についてはキッズキャンプやサマーキャンプ、ウィンターキャンプで可能な限り受け入れるようにしている。

委員 森の昆虫見つけ隊は20年くらいの歴史になった。昆虫採集から標本作りまで行う事業は珍しくなっている。指導できる人も減っている。

生命の大切さを感じる機会にしてもらいたいという思いを受け入れてもらい事業を継続している。これまでの参加者の中には大学に進み昆虫の研究を続けている方もいる。最近では昆虫のブームも来ており、私が事務局をしている昆虫同好会にも子供の参加が増えてきている。

委員 「少年団」という名称について長く使ってきているものだが、女の子も参加していることも違和感がある。

事務局 名称については今後検討していきたい。

(5) 少年自然の家熱中症対策等について

委員 学校でもWBGTを見ながら活動している。自然の家の場合、班毎に行うウォークラリーなどの活動中だと教員が子供たちと同行していないので、活動を中断する連絡をしても子供たちを探して伝達することからタイムラグが生じてしまう。同様に熊出没の対応なども考えると班ごとに行う活動をすることは難しくなっているのではないかと。

事務局 今後、学校等利用団体との事前打ち合わせの際に、ご意見いただいたリスクも確認しながら利用計画を立てるようにしていきたい。

委員 非常に難しい状況になってきていると感じる。班ごとの活動を一律に行わないと決めるのもどうかと考えるが、個別の状況で誰がどのように判断するのかということなどの責任も担当者にかかってくるのでは。

委員 班行動を行うなら各班が冷却材やドリンク等の対策グッズを携行することで、体調不良者への応急対応を行うことも考えられるではないか。

委員 例えば車が入れて何かあってもすぐ救出できる場所での活動なら班行動も可能とし、登山などすぐに救出できないなら団体行動で活動し何かあった場合もすぐ対応できるようにすればよいのではないか。いずれにしても今まで通りにはできないのではないか。

委員 スポーツ少年団でも指導しているが熱中症対策は難しいと感じている。活動中に指数上がってきた場合にどのタイミングで活動をやめる、引き返す、休むといった判断をする見極めや線引きが必要となってくるのではないか。

委員 **WBGT** のセンサーはどれくらい持っているのか。

事務局 本館に3台、サービスセンターに1台合わせて4台ある。

委員 6年前私が小学校に在職していた最後の年にセンサーを購入した。その時はほかに購入していた学校はまだなかった。その後コロナ関連の補助金などもありセンサーの導入が進んできている。現在の学校の状況はどうなっているのか。

委員 八中に **WBGT** を定期的に計測するソラテナという機器が設置されており、八中学区の小学校ではその情報を随時確認できるようになっている。そちらをもとに活動をおこなっている。

事務局 ソラテナ気象観測センサーというもので市内の小学校2校、中学校2校、高校1校に設置されている。その近隣の小中学校にもネット回線で情報を確認できるようになっている。現状自然の家はその情報を確認できるようにはなっていない。

委員 以前は涼しい場所であった。子供たちも自分で自分を守れるようになっていくようにしていくことも大事なのではないか。

(6) 6月20日熊出没への対応について

事務局より、資料を用いて説明。

委員 管理のため上平や大平、嶽原などを見回りしている。熊の情報あれば自然の家にも提供を行いたい。

(7) 自然の家リノベーション推進事業について

事務局より、資料を用いて説明。

質疑等なし

6 閉会